

## 様式2

環境保全行動  
自動車使用管理実施 報告提出書

2025年 7月 30日

(宛先) 札幌市長

提出者 住 所	〒 003-8515 札幌市白石区菊水6条3丁目1-26
氏 名	株式会社アレフ
(代表者名)	代表取締役社長 庄司 大

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

札幌市生活環境の確保に関する条例 第13条第4項の規定により、環境保全行動  
第23条第3項  
報告書を提出します。

報告期間		2024年 4月 1日 ~		2025年 3月 31日		
事業の規模	従業員数	1472	人	原油換算した 燃料・熱・電気の合計量	1721.2 kJ	
	使用床面積	9342.7	m <sup>2</sup>			
	事業所数	23	事業所	自動車使用台数	6 台	
	温室効果ガス排出量 (二酸化炭素 換算排出量)	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 3960 t-CO <sub>2</sub>	メタン t-CO <sub>2</sub>	N <sub>2</sub> O t-CO <sub>2</sub>	HFC t-CO <sub>2</sub>	
		非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	PFC t-CO <sub>2</sub>	SF <sub>6</sub>	NF <sub>3</sub>	t-CO <sub>2</sub>
報告書の担当部署	担当部署名					
	担当者氏名					
	電話/FAX					
	電子メールアドレス					
計画書提出根拠	条例第13条(環境保全行動計画)			<input checked="" type="checkbox"/> 第1項 <input type="checkbox"/> 第3項		
	条例第23条(自動車使用管理計画)			<input type="checkbox"/> 第1項 <input type="checkbox"/> 第2項		
計画期間	2022年 4月 1日 ~ 2025年 3月 31日					
環境保全行動 自動車使用管理実施 報告書	別添のとおり					
備考						

注 1 従業員数、使用床面積及び自動車使用台数は、報告に係る年度の3月31日現在で記入してください。

2 事業所数は、報告年度に係る年度の3月31日現在の札幌市内事業所数を記入してください。

3 燃料・熱・電気の合計量は、報告に係る年度に使用した量を原油換算して記入してください。

4 原油換算の方法は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行規則第4条に規定する方法により行ってください。

5 温室効果ガス排出量は、地球温暖化対策の推進に関する法律第2条第5項で規定する方法により、二酸化炭素排出量に換算したものを記入してください。

6 □のある欄には、該当する□内にレ印を記入してください。

備考 この様式により難いときは、この様式に準じた別の様式を使用することができる。

別添

## 環境保全行動報告書 自動車使用管理実施報告書

## 1 行動目標の達成状況

## 【計画期間】

2022 年 4 月 1 日 ~

### 【報告期間】

2024 年 4 月 1 日 ~

2025 年 3 月 31 日

行動目標	基準数値	目標削減率	2022年度結果			2023年度結果			2024年度結果		
			実績数値	削減率	結果	実績数値	削減率	結果	実績数値	削減率	結果
事業活動に伴う二酸化炭素排出量の削減(単位は売上千円あたり)	0.946	3	0.772	18	○	0.699	26	○	0.664	30	○
	kg/千円	%	kg/千円	%		kg/千円	%		kg/千円	%	
事業活動に伴う水使用量の削減(単位は売上千円あたり)	12.98	3	12.5	4	○	11.2	14	○	10.7	18	○
	リッル/千円	%	リッル/千円	%		リッル/千円	%		リッル/千円	%	
		%		%			%			%	
		%		%			%			%	
		%		%			%			%	
		%		%			%			%	

注 1 実績数値が基準数値よりも増加した場合は、削減率の数値の前に▲を記入してください。

2 結果の欄には、以下のいずれかを記入してください。

○：目標削減率を達成

△：実績数値が基準数値よりも削減されたが、目標削減率は未達成

×：実績数値が基準数値よりも増加

## 2 行動目標達成・未達成の理由

行動目標	結果	理由
事業活動に伴う二酸化炭素排出量の削減(単位は売上千円あたり)	○	売上高が前年比4%増となったが、CO2排出量は1.5%減となった。エアコン、冷凍・冷蔵機器の計画的な更新により、エネルギー使用量の増加を抑える事が出来た。
事業活動に伴う水使用量の削減(単位は売上千円あたり)	○	売上高が前年比4%増となったが、水使用量は1%減となつた。厨房機器の更新による使用量の低減等により、水使用量の増加を抑える事が出来た。